

令和7年度 調布市立飛田給小学校 学校経営計画（学校長 松田 隆）

学校の教育目標	
心ゆたかなたくましい子ども ・じょうぶな体 ・思いやりの心 ・考える力（令和7年度の重点） ・やりぬく力	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
○ 児童が毎日通いたくなる学校 ○ 保護者が安心して通わせることのできる学校 ○ 地域の誇りとなる学校 ○ 教職員が職務にやりがいを感じ、互いに資質を高め合うことができる学校	
ビジョンの設定理由 （本校の現状と課題）	【児童の様子】 ・明るく素直な児童が多く、上級生が下級生を気遣うなど、学年を超えた関わりがみられる。 ・基礎的な知識・技能はおおむね身に付いているが、それを活用する思考力・判断力・表現力を高める必要がある。 【保護者の様子】・学校教育に対して協力的な保護者が多いが、働いている保護者がほとんどのため、PTA 活動の在り方については年々見直しが図られている。ボランティア協力は充実している。 ・地域の中学校への進学を希望する家庭が多い。 【地域の様子】 ・学校教育を支える体制は充実しているが、地域協力者が年々高齢化している。コミュニティ・スクール導入に伴い、幅広い世代に協力を依頼し、学校への理解をさらに深めていく必要がある。 【職員の様子】 ・保育・介護などの家庭状況がある職員が多い。協力体制は整っているが、一部の職員に負担が偏ることのないよう配慮する必要がある。
中期的な経営目標	
① 周りの人も、自分も大切にする児童の育成 (1)人権教育の推進 (2)多様性を尊重する児童の育成 (3)キャリア・パスポートの活用 (4)ゆずりは集会、学習発表会など学校行事の充実 ② 個に応じた学習指導の充実 (1)学習規律の徹底 (2)基礎的な知識・技能の確実な定着 (3)算数指導の充実 (4)総合・生活科の計画的実施 (5)教科担任制の拡充 ③ オリンピック・パラリンピックレガシーの継承 (1)アスリート派遣事業などの活用 (2)運動の日常化 (3)保健指導、食育指導の充実 ④ 特別支援教育の充実 (1)校内支援体制の充実 (2)誰もが分かりやすい授業づくりの推進 (3)校内通級教室拠点校としての巡回指導の体制整備 ⑤ 安全・安心な学校づくりの推進 (1)いじめの未然防止・早期解決 (2)不登校の未然防止、状況改善 (3)学校からの情報発信の充実 (4)地域との連携 ⑥ ・学校運営協議会と地域学校協働本部の連携の充実 ・ICT の活用 ・役割分担を明確化した組織的な学校運営 ・働き方改革の推進 人・組 ・将来を見通したキャリア・プラン ・職層に応じた組織貢献 ・研修に積極的に取り組むことによる自己研鑽	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①挨拶の励行	①3 年生以上教科担任制の実施	①全校で取り組む休み時間外遊びの励行
②保護者、地域住民が参加しやすい行事運営	②タブレットの効果的な活用	②アスリート派遣事業を活用した授業体験
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①自分から挨拶できる児童70%以上	①各学年 1 教科以上、拡充を目指す	①雨天時以外、毎日
②保護者の参観80%以上	②授業での活用、家庭への持ち帰り共に毎日	②各学年 1 回以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 特別支援教育の充実	⑤ 安全・安心な学校づくり	⑥ 働き方改革の推進
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
①個別指導計画、支援計画の作成による個に応じた支援	①「ステップルーム」運営の充実	①「すぐーる」活用によるペーパーレス化
②巡回校の管理職との情報共有	②健全育成連絡会参加による連携・情報共有	②休暇取得の促進
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①必要な児童の作成率100%	①登校0日の児童を0にする	①「すぐーる」をメインに 5 月から
②月 1 回以上	②副校長と分担し、毎月	②管理職も含めて、15 日以上

人材育成・組織運営
・職層ごとの役割を明確にし、組織の一員としての自覚を高めさせる。特に主任教諭に対して、学校運営への参画意識をもたせ、校務の中心的役割を担わせるとともに、人材育成を意識させる。 ・校務分掌組織を常に見直し、職員の資質向上につなげるとともに、業務負担の偏りを是正する。 ・副校長の幅広い職務について、効率的な進め方を実践的、具体的に指導する。危機管理の在り方については、特に入念に指導する。異動により、昇任者が着任した場合も支障が出ないよう、年度当初の職務について分かりやすく資料に残すようにさせる。 ・経験年数に応じて、東京教師道場、教育研究員などへの積極的な参加を意識付ける。学んだ成果を、校内、市内で還元させる。